

事業所における自己評価結果（公表）

別紙 3

公表：令和 5 年 4 月 13 日

事業所名：児童発達支援センター 恵光園こどもの家

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・子どもの数に応じて部屋を変更している。	・今後も継続する。
	②	職員の配置数は適切である	○		・子どもの発達や年齢に応じて、職員配置を調整している。	・配置基準を充たす職員はいるが、子どもの発達や業務形態により、職員数を調整していくことが必要。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・エリアを分け、空間をわかりやすく設定している。 ・視覚的支援として絵や写真カードを使用している。	・今後も継続する。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・食後や療育後に清掃、消毒を行い、清潔を保ちながら感染症対策も行っている。 ・一定時間ごとに消毒、換気を行っている。 ・発達に応じた遊具等の環境設定、定期的な絵本やおもちゃの入れ替えを行っている。 ・時期に応じて虫の駆除、除草作業を行っている。 ・月一回の安全、衛生チェック、週一回の職場順守チェックを行っている。	・今後も継続する
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		・事業所会議、リーダー会議、朝礼、職員面談等で、その都度、確認している。	・新型コロナウイルスが 5 類に変更後、行事をどう進めていくか検討していく。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・アンケート結果を職員にも開示し、共有、改善に努めている。	・今後も継続する。

				・保護者のご意見を・保護者来園日でも、ご意見についての対応を説明していく。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○	・アンケート結果をホームページで公開し、保護者にも伝えている。 ・事業所で検討する内容、法人全体で検討する内容を精査し、支援の質の向上を目指している。	・今後も継続する。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○	・平成 27 年度に受けている。 ・保護者への意見箱の案内、保護者アンケート、個別面談等を行い、業務改善につなげている。	・今後も継続する。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○	・内部研修、動画視聴研修などを行っている。 ・外部研修を職員に案内し、自主的な研修の機会を設けている。 ・勤続年数に応じ、専門的な研修会への参加を促す。 ・他事業所見学や保育所等との交流を行い、情報を得ている。	・研修方法が変化しているので、各自、参加しやすい方法での研修機会を作っていくことが必要。 ・地域支援を行える職員の育成。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○	・発達に応じたポータージの項目で活動を行い、2 か月ごとの確認をしながらアセスメントを行う。 ・半年ごとの課題設定を行う。 ・保護者の要望書を元に、半年ごとの原案会議を行い、作成している。	・今後も継続しながら、各領域でさらに細分化された課題設定を作成していく。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○	・ポータージ早期教育プログラムを使い、発達の確認を行っている。	・今後も継続する。

⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の要望書を基に、原案会議を行い、保護者が一番必要としている支援を課題として挙げ、課題達成のための具体的な支援を明記している。 	・今後も継続する。
---	--	---	--	-----------

⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースごとの話し合い、記録の確認を行い、確認している。 	・今後も継続する。
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス以外での活動もグループで行っているため、職員全員で連携を図っている。 ・どの職員も立案できるよう助言したり、内容分担したりして行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の質をさらに高めるため、乳幼児の発達段階について、保育所保育指針の内容について、研修を行っていく。
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントも含めて2週おきの計画立案を行い、活動後の見直しを行う。 ・1週間の中に、ポーターズの各領域が組み込まれるよう配慮している。 ・内容や職員が固定化されないように工夫している。 ・本やインターネット等で新しい情報を取り入れながら考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく発散できる活動、就学に向けての基礎的な部分についての活動を作成できるよう、引き続き研修等を行い、指導力を上げていく。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○	<ul style="list-style-type: none"> ・活動後のケース検討を行い、発達に応じたグループ分けを行っている。 	・今後も継続する。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	<ul style="list-style-type: none"> ・前日、もしくは当日に打合せし、週間スケジュール確認、サービス提供記録&実施計画確認を行っている。 ・必要な用具、教材、教具の準備を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材、教具が年々変化しているので、発達や年齢に応じた物を職員間で検討し、そろえていくことが必要。

	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の内容は、その日のうちに共有できるよう心掛けている。 ・記録を行いながら、活動の様子、気付きを職員間で共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCA サイクルを活用し、スピード感を持って子どもたちの支援に生かしていく。 ・多様な働き方の中で、報・連・相をどのように行うか日々、見直している。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス提供記録を記入し、その日の課題や次の活動内容を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続する。
	⑳	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○	<ul style="list-style-type: none"> ・半年ごとに保護者と個別支援計画原案会議（面談）を行い、前計画の達成度確認、見直しを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、随時、面談を行っていく。
関係機関や保護者との連携関係機関	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援管理責任者、クラス担当職員がモニタリングや担当者会議等に参画している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への移行支援が増えていくことも考え、地域参画ができる職員を育成していくことが必要。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○	<ul style="list-style-type: none"> ・その都度連絡し、内容によっては担当者会議に参加している。 ・幼稚園、保育所等の巡回相談、乳幼児健診等にも参加し、センター的機能として連携を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子ども・子育て支援等の関係者と連携し、保護者向けの研修会を行ってもらう。
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、医療的ケアが必要な子どもの受け入れはなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的な動向をしっかりと確認していく。 ・関係機関と連携し、地域ニーズを拾い上げていく。
	㉔	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、医療的ケアが必要な子どもの受け入れはなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的な動向をしっかりと確認していく。 ・関係機関と連携し、地域ニーズを拾い上げていく。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、保育所等訪問支援事業や福岡県障害児等療育支援事業を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の保育所、認定こども園、幼稚園、就学後の小学校（特別支援学校）、放課後児

				・ポーターの領域ごとに発達を整理し、引き継ぎシートを作成している。	童クラブ等へも、どのようなサポートができるかを周知していく。
②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・福岡県サポートノートを活用し、保護者、小学校（特別支援学校）、放課後等デイサービス、放課後児童クラブへ引き継ぎを行った。 ・就学先の学校より活動の様子を見るために来園していただき、様子を細かく伝えた。 ・就学後の保・幼・小連携会議にも積極的に参加している。	・今後も継続する。
②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・移行にあたっての引き継ぎや事業所見学を行い、情報交換したり、交流を図ったりした。	・今後も継続する。 ・研修会にも積極的に参加していく。
②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		・コロナで子ども同士の交流は難しかったが、馬のふれあい等で保育園からの来園はあった。 ・挨拶を交わすなどの交流を行った。	・三密を避けながら出来得る交流を検討していく。

②⑨	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		・管理者が参加し、各地域との横のつながりを大事にしている。	・今後も参加し、職員にも内容を周知していく。
③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・送迎時の伝達や連絡帳にて、保護者と日々のやり取りを行っている。	・内容により、面談や電話で直接やり取りする場合も増えているので、対応していく。
③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○		・保護者来園日にて、各分野の専門職からの研修会や職員が子育て、虐待についての家族支援を行っている。	・保護者が必要としている情報が何か確認しながら、今後も継続する。
保 護 ③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・契約時、説明を行っている。	・必要に応じて、繰り返し説明を行う場合がある。

者 へ の 説 明 責 任 等	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○	・個別支援計画原案会議で保護者と共に検討した内容を基に作成した個別支援計画を説明し、同意を得ている。	・今後も継続する。
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	・連絡帳記入、電話、保護者来園日での研修会、面談を行っている。 ・随時、相談、面談希望を受け、行っている。事前に相談内容を記入していただき、面談を実施している。	・今後も継続する。 ・家庭の状況に応じ、家庭訪問での支援も検討していく。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	・個々で通園の利用の仕方が異なるため、父母の会の活動は行っていない。 ・来園日を実施し、地域でつながれるよう支援している。 ・療育参加やレクリエーション大会、発表会など、子どもを通しての交流機会は設けている。	・地域でのつながりを慎重に丁寧に支援している。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○	・即時、検討して改善している。 ・苦情、意見にあたる内容は、法人全体の会議でも議題に挙げ、検討している。	・多様な相談内容に対応できる職員育成が必要。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	・年間の事業計画、月一回のおたより発行して伝えている。 ・おたよりや連絡帳に写真を載せ、内容が分かりやすいように工夫している。	・今後も継続する。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○	・個人情報の基本方針の説明と、同意書にて確認をとっている。 ・職員研修を行い、毎年、確認している。	・個人情報の取り扱いが以前より厳しくなってきているので、変動を随時確認していく。

	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・実物や写真、絵、マーカーでポイントを示すなど、文章だけでなく、視覚的にすぐに捉えられる方法を工夫している。	・今後もより伝わりやすい方法を検討していく。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・クリスマスや節分（豆まき）などの行事に来園していただき、子ども達のとの交流を図った。	・今後、地域の状況を見ながら拡大していく。
非常時等の対応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・マニュアルを毎年作成し、定期的に確認を行っている。 ・バス避難訓練、コロナ感染症発覚時の連絡体制等、新しい内容の訓練も行った。	・年々変化する発生事案に対しての対策を、その時々必要性に応じて検討していく。
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・防災の日に防災食を提供し、避難場所での食事や食器を体験する機会を設けている。 ・毎月、避難訓練を行っている。 ・年度末は日時や場所を知らせずに行い、訓練成果を確認している。 ・BCP（事業継続計画）の研修を行っている。	・今後も継続する。 ・近年の災害状況を見ながら、訓練内容を確認していく。
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・健康管理表、服薬表等で確認している。 ・てんかん発作対応、アレルギー発作対応の研修、発作発生時の連絡方法等の確認を行い、職員間で連携を取っている。 ・バス内での発作発生も考え、毎年、職員研修を行っている。	・今後も継続する。
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・医師の指示書を提出していただき、除去対応を実施している。	・今後も継続する。
	④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・事業所会議や朝礼で共有し、危険な場所では職員が声をかけ合い、見守りながら気を付けている。	・ヒヤリハット事例をロールプレイング研修として行い、話し合う機会を設けていく。

④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待についての研修を年2～3回ほど設けたり、その都度指導を行ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修も含めて、今後も継続する。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束について、保護者にも重要事項説明書にて説明を行っている。 ・緊急の身体拘束としてやむを得ず行った場合は、身体拘束の記録に記載し、報告している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・療育中に身体拘束にあたる行為はないか、職員間で確認していく。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。